神戸新聞　2022/10/06

アサギマダラ 今年もきたよ

上野台中、8年連続で確認

生徒会中心に夏休みも中継地づくり

「どんどん飛んできてほしい」

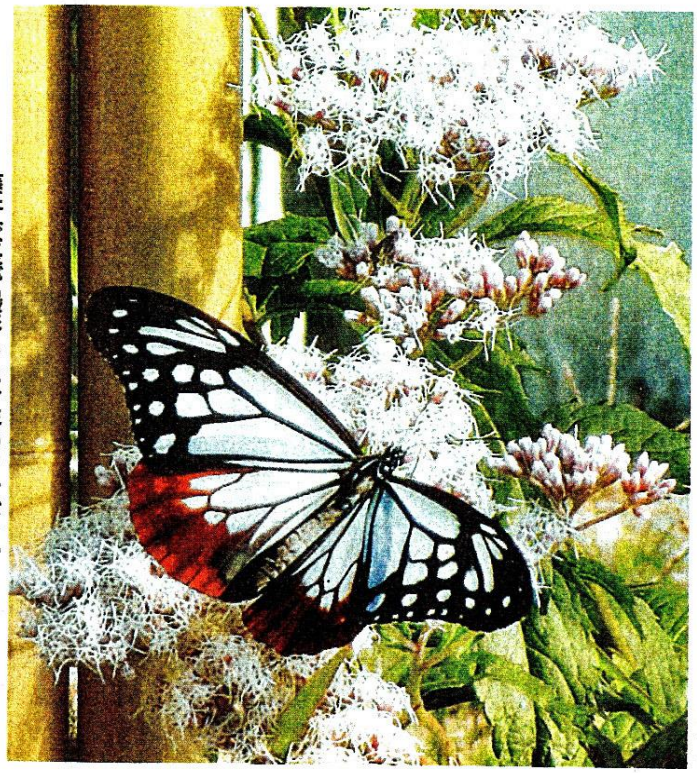
越冬のため長距離の季節移動をするチョウ「アサギマダラ」が、今年も上野台中学校（三田市志手原）へやって来た。同校ではアサギマダラが好む花「フジバカマ」を育て、中継地づくりに取り組み、8年連続で校内での確認に成功している。生徒は「これからどんどん飛んできてほしい」と期待している。（喜田美咲）

アサギマダラは春から夏にかけ、本州の高原地帯で繁殖する。「旅するチョウ」ともいわれ、夏が終わって気温が下がり始めると、暖かい九州や沖縄などを目指して南下する。

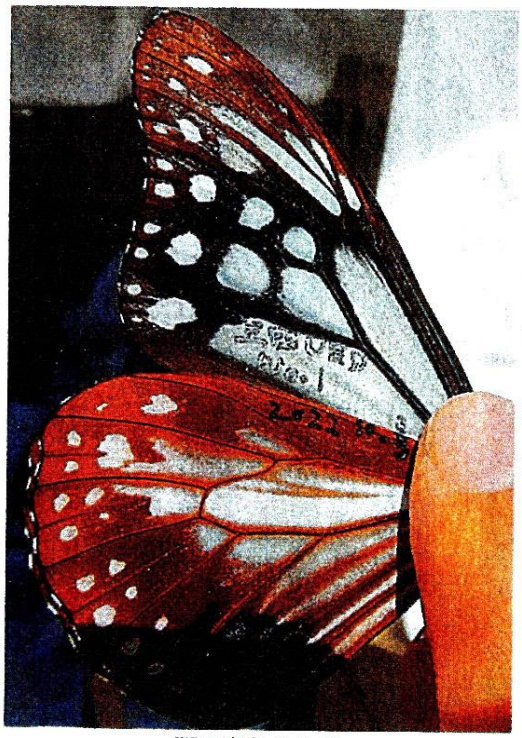
同校では2015年から、校内の花壇などでフジバカマを育てている。生徒会役員が中心となり、挿し芽に水をやり、夏休みに集まって雑草を抜くなど汗を流して育ててきた。アサギマダラの羽に同校で確認したと分かる印を付けて再び放ち、飛んだ跡を追っている。

昨年はフジバカマの生育がよく、9月7日から少なくとも30匹は確認できたという。今年はアリの大量発生で発育が悪かったことや台風なども影響してか、1カ月遅れの10月3日に初確認。午前9時前、福岡孝太郎教頭が羽を休める姿を目撃し、藤井許善校長と協力して捕獲した。生徒が「三田UED（上野台）No.1」と羽に記し、再び校庭へ放った。

今年は、同校がフジバカマを株分けした神戸の小学校から「アサギマダラを確認した」と2週間前に連絡があり、「三田はまだかな」と気になっていたのでよかった」と福岡教頭もほっとした様子。生徒会長の3年井上綺星（きら）さん(15)は「海外まで飛んで、上野台中のことも広めてくれたらうれしい」と話した。



藤井校長が撮影した今年のアサギマダラ（いずれも提供）



羽に書かれた印